T14MZ ソフトウェアアップデート変更内容

（エディタ・バージョン 1.6.0　エンコーダ・バージョン 1.44）

次の機能が追加または変更されています。本セットに付属の取扱説明書を読み替えてご使用ください。

機能追加，変更

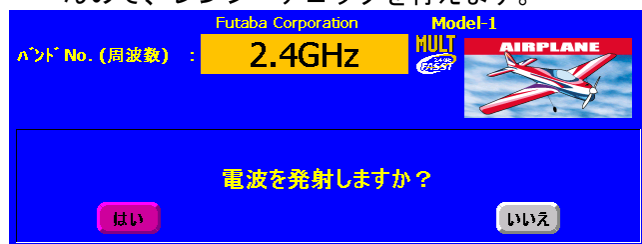
2.4G モジュール 確認操作

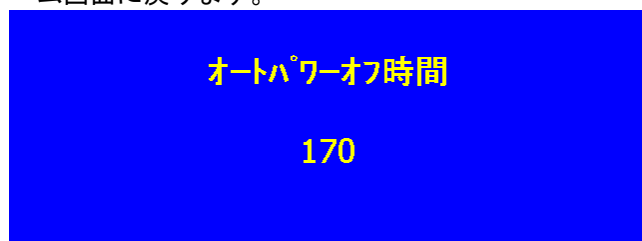
2.4G モジュール TM-14 装着時は、電源投入時に自動的に電波を発射するようになりました。

■ MZ-FM モジュール装着時は、従来通り電波の確認画面が表示されます。

レンジ・チェック機能の操作手順

TM-14 装着時に、電波を発射している状態ではレンジ・チェック機能が使用できないため、以下の手順で電波を停止した状態で起動します。

1. タッチパネルの任意の位置を押しながら電源スイッチを入れて下さい。確認画面が表示されますので、[いいえ]を選択します。電波は発射されませんので、レンジ・チェックを行えます。

オートパワーオフ警告

オートパワーオフの 3 分前からアラーム音と共に警告画面が表示され、オートパワーオフまでの残り時間が表示されるようになりました。警告画面表示中にスティックやスイッチ等を操作すると警告が解除され、ホーム画面に戻ります。

トレーナー 生徒チャンネル設定機能

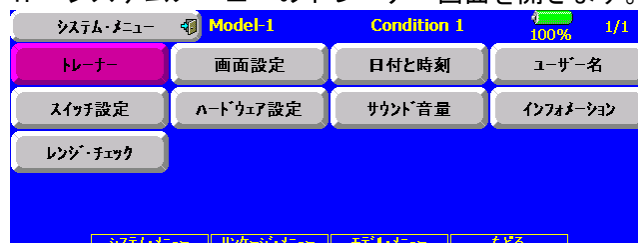
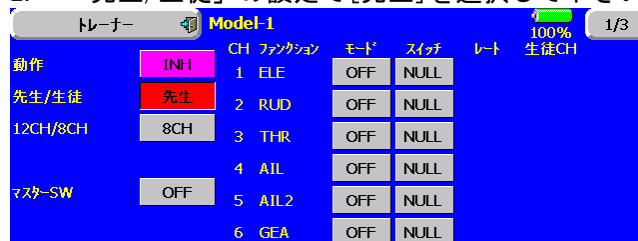
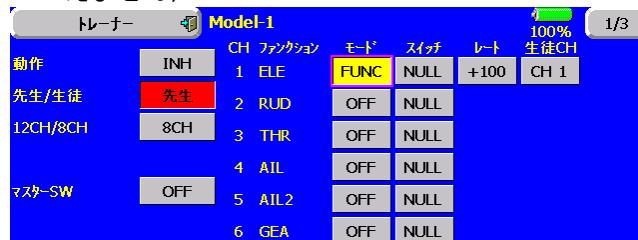
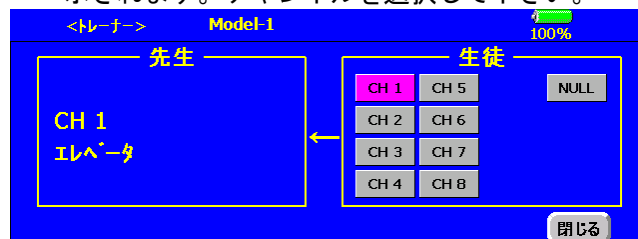
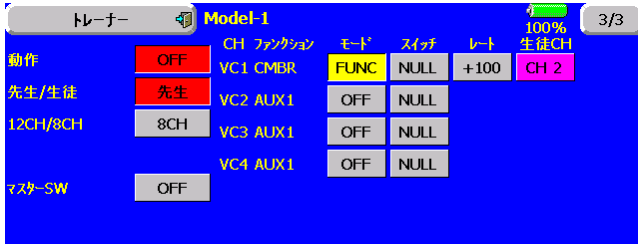
トレーナー機能の先生側送信機のモード設定に、"FUNC"又は"MIX"が設定されている場合、生徒側送信機からの信号の何チャネル目を先生側ファンクションの入力信号として取り込むかを設定できるようになりました。これにより、先生側と生徒側でチャンネル並びが異なる場合でも、容易にトレーナー接続することが可能になります。

■ 先生側送信機のモードが"NORM"に設定されている場合、生徒側送信機の同じチャンネルの信号がそのまま出力されます。（従来と同様）

<生徒 CH 設定の例>

生徒側	
CH1	エルロン
CH2	エレベータ
CH3	スロットル
CH4	ラダー
CH5	ギア
CH6	フラップ
CH7	エルロン 2
CH8	予備 5
CH9	予備 4
CH10	予備 3
CH11	予備 2
CH12	予備 1

先生側	生徒 CH
エレベータ	CH2
ラダー	CH4
スロットル	CH3
エルロン	CH1
エルロン 2	--
フラップ	CH6
ギア	CH5
予備 5	CH8
予備 4	CH9
予備 3	CH10
予備 2	CH11
予備 1	CH12

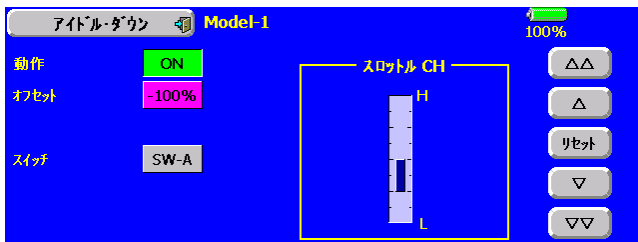
1. システムメニューのトレーナー画面を開きます。

2. 「先生/生徒」の設定で[先生]を選択して下さい。

3. 設定するチャンネルのモードで[FUNC]または[MIX]を選択すると[生徒 CH]の設定ボタンが表示されます。([NORM],[OFF]時は[生徒 CH]の設定は行えません)

4. [生徒 CH]ボタンを押すとチャンネル選択画面が表示されます。チャンネルを選択して下さい。

■　生徒チャンネル機能追加により、トレーナー機能で VC に割当てられたファンクションのミキシングが使用できるようになりました。(無尾翼機のエレベータやグライダのバタフライ)

モデルコピー日付

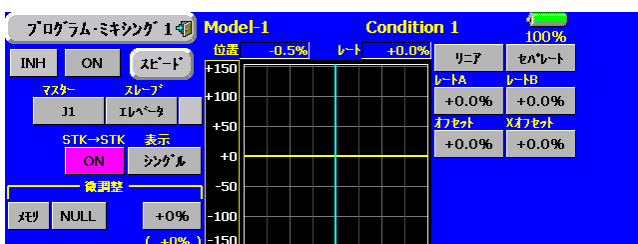
モデルデータをコピーした時、モデルの日付データがモデルコピーした日付にリセットされるようになりました。

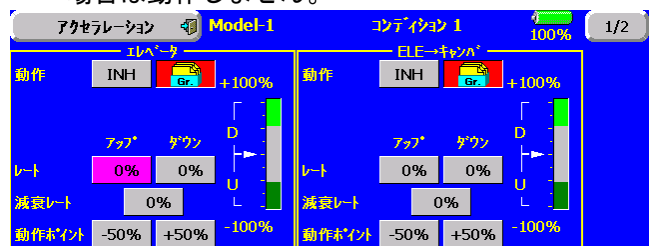
フェール・セーフ初期値

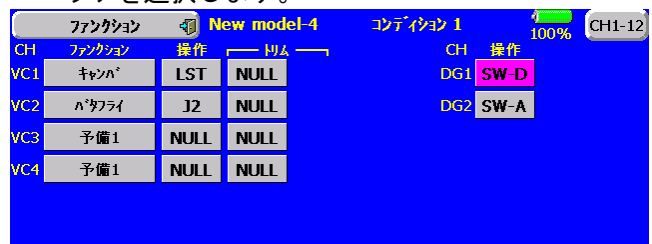
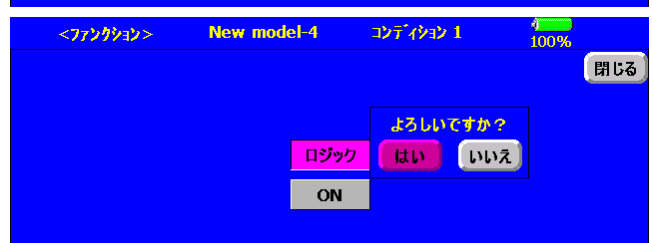
■　スロットルチャンネルのフェール・セーフ初期値を、ホールドに変更しました。
■　スロットルチャンネルのバッテリー・フェール・セーフ初期値を、OFF に変更しました。
■　バッテリー・フェール・セーフ解除スイッチの初期値を、NULL(OFF)に変更しました。

アイドル・ダウン

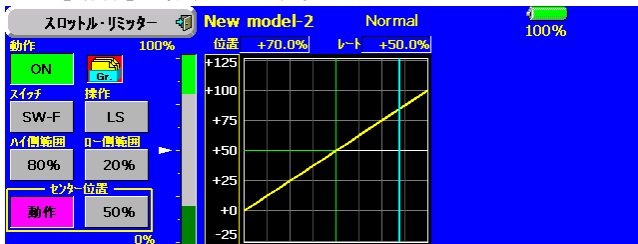
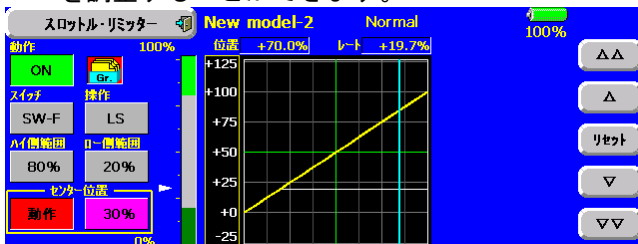
アイドル・ダウンのレート入力範囲を、0～+100%から-100～+100%に変更しました。
■　マイナスレートを入力すると High 側にオフセットが付きます。

プログラマブル・ミキシング

プログラマブル・ミキシング(ミキシングモード時)の STK→STK ミキシング機能が、マスターがスティック等のハードウェアの場合にも使用できるようになりました。

アクセラレーション

エレベータ/ELE→キャンバ/エルロン→ラダーにアクセラレーション設定が行えるようになりました(グライダ/EP グライダのみ)
■　エレベータ、ELE→キャンバ、エルロン→ラダー設定に分かれています。設定方法は同じです。
■　ELE→キャンバ設定は ELE→キャンバ ミキシングに対してのアクセラレーション機能の設定となります。ELE→キャンバ ミキシングが INH の場合は動作しません。
■　アップ側/ダウン側(レフト側/ライト側)共に、アクセラレーション機能を設定可能です。
■　エルロン→ラダー設定のみ、機能の ON/OFF スイッチ設定が行えます。
■　エルロン→ラダー設定はエルロン→ラダーミキシングに対してのアクセラレーション機能の設定となります。エルロン→ラダーミキシングが INH の場合は動作しません。

スイッチ・チャンネル

DG1/DG2 にロジックスイッチが割り当てられるようになりました。
■　設定できるロジックスイッチの数はコンディションの切替スイッチと合わせて 10 個です。
■　ロジックスイッチ設定時は、オルタネート設定も行うことができます。
1.　ファンクション画面で DG1 または DG2 の操作スイッチを選択します。

2.　[シングル]を押しモードを[ロジック]に変更するとロジックスイッチを割り当てることができます。

スロットル・リミッター

スロットル・リミッターで操作ハードウェアのニュートラル位置におけるリミット値を調整できるようになりました。

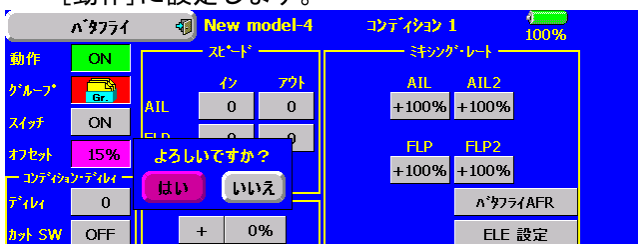
1. スロットル・リミッター画面で″センター位置″を[動作]に設定します。

2. ″センター位置″のレートを変更すると、操作ハードウェアのニュートラル位置におけるリミット値を調整することができます。

■ ″センター位置″を[INH]にした場合(従来動作時)の操作 H/W のニュートラル位置におけるリミット値は、″ﾊｲ側範囲″と″ﾛｰ側範囲″の中間値です。

■ ″センター位置″を[INH]から[動作]にした時、″センター位置″のレートは″ﾊｲ側範囲″と″ﾛｰ側範囲″の中間値にリセットされます。

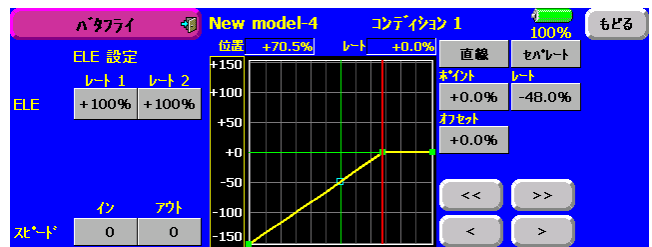
■ ″センター位置″のレートは″ﾊｲ側範囲″と″ﾛｰ側範囲″の間で設定できます。

バタフライ オフセット設定

バタフライのオフセット設定を行った時に、自動でエレベータ設定カーブを初期化する機能を追加しました。

1. スロットル・リミッター画面で″センター位置″を[動作]に設定します。

2. ″エレベータを初期化しますか？″と表示されたら[はい]を選択するとエレベータ設定カーブが初期化されます。

3. ELE 設定画面を開くとカーブが初期化されています。

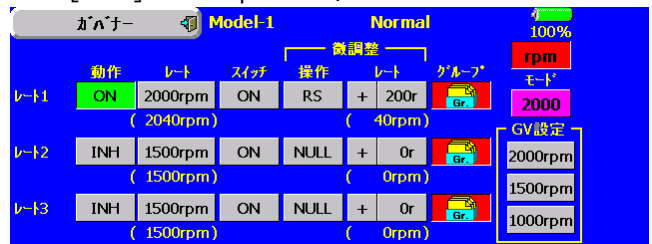
■ 2 で[いいえ]を選択した場合、ELE 設定カーブは初期化されません。

ガバナー

回転数表示モード

ガバナーレートの回転数表示モードが選択できるようになりました。

1. ガバナー画面で″モード″ボタンを押すと、表示モードが切り替わります。

■ [2000]：2000rpm モード

■ [2500]：2500rpm モード

■ 2500rpm モードと 2000rpm モードで違いがあるのはレートが 50.0%(=1500rpm)以上の時です。50.0%以下のレートでは、どちらも同じ rpm 表示になります。

■ 2500rpm モード設定時は 100.0%=2500rpm となります。最大値は 110.0%=2700rpm です。

■ 2000rpm モード設定時は 100.0%=2000rpm となります。最大値は 110.0%=2100rpm です。(従来仕様)

■ 2500rpm モードと 2000rpm モードを切り替えても、送信機の出力に変化はありません。ガバナー側でキャリブレーションを行う必要があります。

エンドポイント初期化

ガバナー設定の″動作″ボタンが押された時に、ガバナー出力チャンネルのエンドポイント(ATV)の″動作量″と″リミット″が初期化されるようになりました。

■ [INH]から[ON]または[OFF]に変更すると、″動作量″が[100],″リミット″が[155]に初期化されます。

■ 全てのコンディションで、レート 1,2,3 の″動作″を[INH]に変更すると、″動作量″が[100],″リミット″が[135]に初期化されます。

警告表示

スロットルスティック位置警告

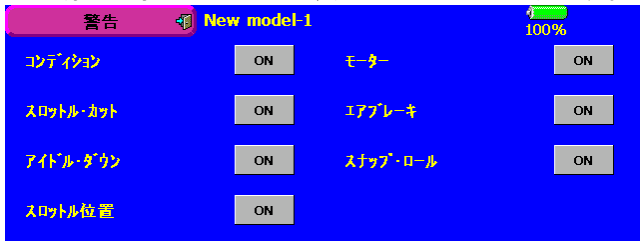
電源 ON 時にスロットルスティックの位置がハイ側(THR カット動作と同じ 1/3 以上)の場合、ワーニング表示がされます。(飛行機/ヘリコプターのみ)

■ スロットルスティックをローに戻すと、ワーニング表示は消えます。

警告表示 ON/OFF 設定

電源 ON 時のワーニング表示を機能毎に ON/OFF できるようになりました。電源 ON 時に動作すると危険と思われる機能を ON に設定してご使用下さい。初期設定は全て ON です。

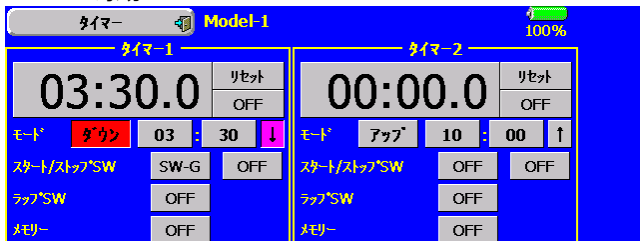
1. リンケージメニューの”警告”を開きます。

2. 個別に設定を変更できます。[OFF]に設定すると電源 ON 時のワーニング表示がされなくなります。

タイマー

アラームモード

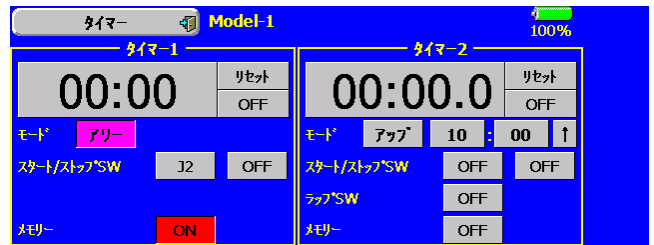
タイマーのアラーム時刻までの残り時間 1 分毎にアラームを鳴動させるモードを追加しました。

1. タイマー設定画面を開きます。
2. ↑ボタン(または↓)を押し、設定を変更します。

- ↑：タイマースタートから経過時間 1 分毎にアラーム鳴動(従来モード)
- ↓：アラーム時刻までの残り時間 1 分毎にアラーム鳴動

アワーモード

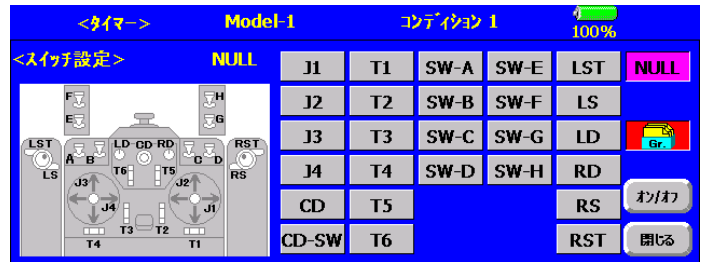
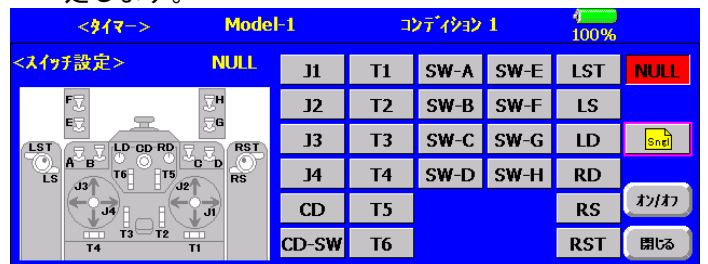
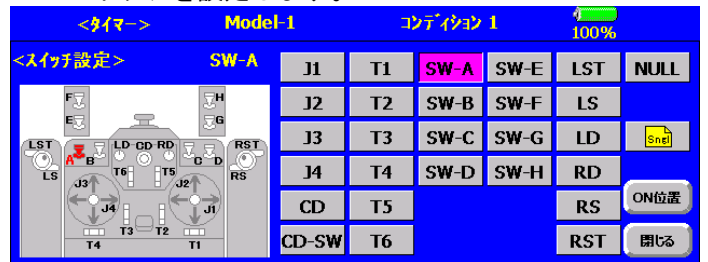
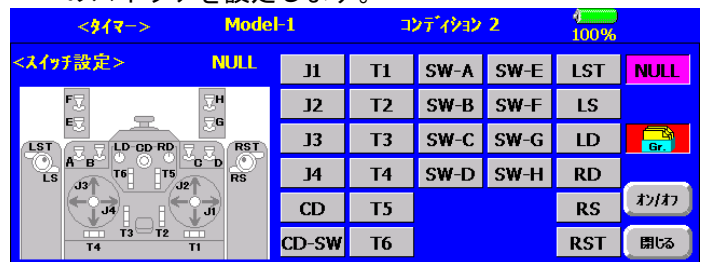
タイマーモードに 99 時間 59 分までカウントするアワーモードを追加しました。

- エンジンのメンテナンス時期など、長時間計測に利用すると便利です。
- アワーモード設定中は、カウント時間表示部が”xx(時間)：xx(分)”と表示されます。秒は表示されません
- アワーモード設定中は、タイマー動作中に”：”が 1 秒毎に点滅します。
- アワーモード設定中は、アラーム機能/ラップタイム計測機能は無効です。

1. タイマー設定画面を開きます。
2. タイマー設定画面の”モード”を[アワー]に設定します。

スイッチ設定

タイマーのスイッチがコンディション毎に設定できるようになりました。

- 全てのスイッチ(スタート/ストップ/リセット/ラップ)でグループ設定が行えます。
- デフォルト設定は[Group]です。

1. タイマー設定画面を開きます。

2. 個別にスイッチを設定したいコンディションのグループ設定ボタンを、シングルモード [Sngl]に設定します。

3. スイッチを設定します。

4. コンディションを切り替えて、各コンディションのスイッチを設定します。

PCM-G3+方式受信機対応

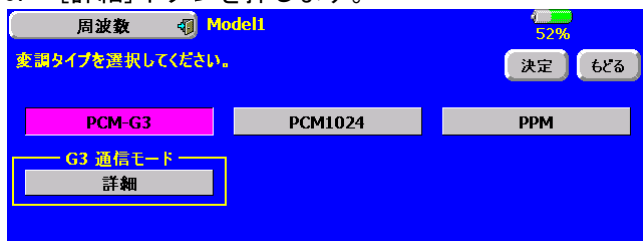
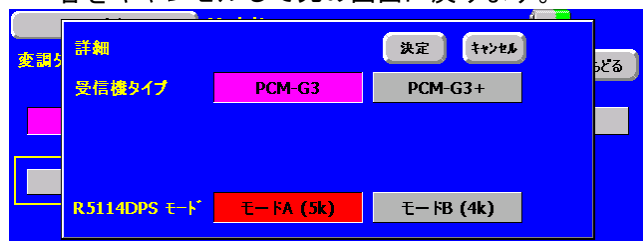
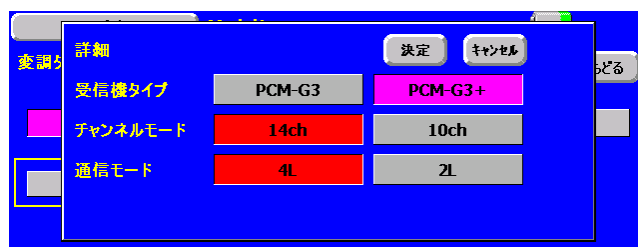
従来の「PCM-G3」を改良した「PCM-G3+」に対応いたしました。PCM-G3+方式に対応した受信機を使用する場合に、以下の追加機能を使用できます。

■　通信モード切り替え機能（4L モード，2L モード）
　　安定性を強化した 2L モードを追加しました。
　　※ 2L モードでは、4L モードよりも約 40%レスポンスが低下します。
■　チャンネルモード切り替え機能（14 チャンネルモード，10 チャンネルモード）
　　10 チャンネルモードに切り替えることにより、従来よりも約 40%レスポンスが向上します。（当社 PCM-G3 比）

■　R5014DPS 及び R5114DPS 受信機は、PCM-G3+方式に対応しておりません。対応受信機は今後の販売を計画しています。
■　R5014DPS 及び R5114DPS 受信機をご使用の場合は、後述の「受信機タイプ」を[PCM-G3]に設定してください。

設定方法

1. MZ-FM 高周波モジュールを T14MZ に差し、電源スイッチを ON にします。
2. リンケージ・メニューの「周波数」ボタンを押して周波数メニューを呼び出します。
3. 変調方式のボタンを押して、変調方式選択画面を呼び出します。

4. 「変調方式」を選択します。
5. [詳細]ボタンを押します。

6. PCM-G3 の詳細設定画面が開きます。ここでは、以下の設定を行うことができます。
　・チャンネルモード
　・通信モード
　・受信機タイプ
　・R5114DPS 通信モード
　詳細設定を行い、[決定]ボタンを押すと元の画面に戻ります。[キャンセル]ボタンを押すと変更内容をキャンセルして元の画面に戻ります。

PCM-G3 受信機の場合

PCM-G3+受信機の場合

受信機タイプ設定

受信機の種類に合わせて受信機タイプを選択してください。

1. 受信機タイプを選択します。
　[PCM-G3] ：従来の PCM-G3 受信機（R5014DPS, R5114DPS ）
　[PCM-G3+]：PCM-G3+対応受信機
2. [決定]ボタンを押して、受信機タイプを変更します。[キャンセル]を押すと、設定が取り消されます。

チャンネルモード設定

PCM-G3+受信機を使用する場合は、チャンネルモードを選択できます。

■　14 チャンネルモード
　　従来の PCM-G3 受信機と同じように、1～12 チャンネルと DG1,DG2 が動作します。
■　10 チャンネルモード
　　1～8 チャンネルと DG1,DG2 の計 10 チャンネルが使用できるモードです。チャンネル数は少なくなりますが、14 チャンネルモードと比べ、約 40%レスポンスが向上します。

1. チャンネルモードを選択します。
　[14ch]：14 チャンネルモード
　[10ch]：10 チャンネルモード
　※10 チャンネルモードは 14 チャンネルモードより 40%高速です。
2. [決定]ボタンを押して、チャンネルモードを変更します。[キャンセル]を押すと、設定が取り消されます。

■　受信機タイプを PCM-G3 に設定した場合は、チャンネルモード設定ボタンは表示されません。

通信モード設定

PCM-G3+受信機を使用する場合は、通信モードを選択できます。

■ 4L モード
　従来の PCM-G3 受信機と同じ高速通信モードです。

■ 2L モード
　安定性を重視した通信モードです。4L モードで通信が不安定な場合は、2L モードに設定してください。4L モードと比べ、約 40%レスポンスが低下します。

1. 通信モードを選択します。
   [4L]：4L モード
   [2L]：2L モード
2. [決定]ボタンを押して、通信モードを変更します。
   [キャンセル]を押すと、設定が取り消されます。

■ 受信機の通信レベル切り替えスイッチを、送信機の設定に合わせてください。

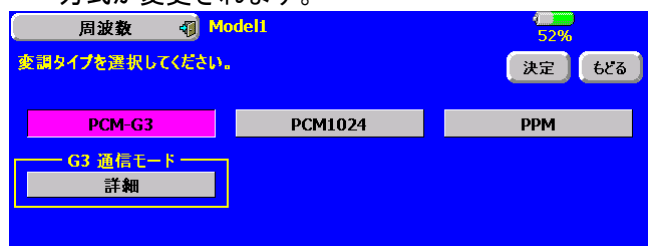
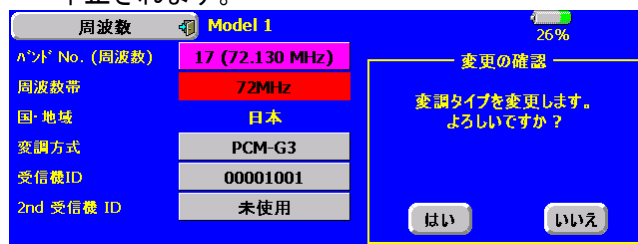
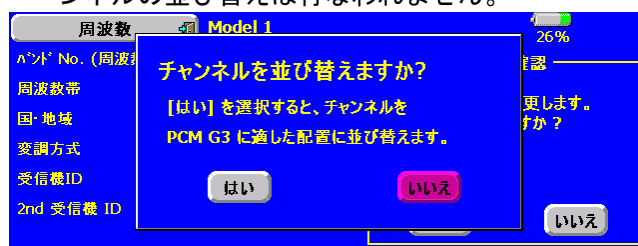
■ 受信機タイプを PCM-G3 に設定した場合は、チャンネルモード設定ボタンは表示されません。

R5114DPS 通信モード設定

R5114DPS 専用の機能です。

1. R5114DPS 通信モードを選択します。
   [モード A(5k)]：通信モード A
   [モード B(4k)]：通信モード B
2. [決定]ボタンを押して、通信モードを変更します。
   [キャンセル]を押すと、設定が取り消されます。

■ 受信機タイプを PCM-G3+に設定した場合は、R5114DPS 通信モードボタンは表示されません。

7. 変調方式設定画面で、[決定]ボタンを押すと変調方式が変更されます。

8. 確認メッセージが表示されます。[はい]を押すと変調モードが変更され、[いいえ]を押すと変更が中止されます。

9. チャンネルの並び替えの確認メッセージが表示されます。[はい]を押すとチャンネルが変調モードの既定値に変更されます。[いいえ]を押すとチャンネルの並び替えは行なわれません。

■ モデルタイプがヘリコプターで PCM-G3+ 10 チャンネルモードを選択した場合は、チャンネル-ファンクションの標準配置が、14 チャンネルモードとは異なります。10 チャンネルモードのチャンネル並び初期値を以下に示します。

チャンネル	H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	H4, H-4X
1	スロットル	スロットル
2	ラダー	ラダー
3	ジャイロ	ジャイロ
4	ガバナー	ガバナー
5	ニードル	エルロン
6	エルロン	エレベータ
7	エレベータ	ピッチ
8	ピッチ	エレベータ 2
VC1	AUX1	AUX1
VC2	AUX1	AUX1
VC3	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1

⚠注意

❗ 2.4GHz システムに対応するため、ソフトウェアを本バージョンにアップデートするとモデルデータが新しい形式に変換されます。ソフトウェアバージョン 1.2.0 以降の送信機のモデルデータを、これより古いバージョンの送信機にコピーして使用した場合は正常に動作しません。必ず、コピー先の送信機もバージョン 1.2.0 以降にバージョンアップしてください。バージョン 1.2.0 より古い送信機のモデルデータをバージョン 1.2.0 以降の送信機にコピーする場合は、コピー先の送信機で自動的にデータを変換しますので、正常に動作します。

2.4GHz システム対応

2.4GHz システム「FASST」に対応いたしました。対応する高周波モジュールは TM-14 です。

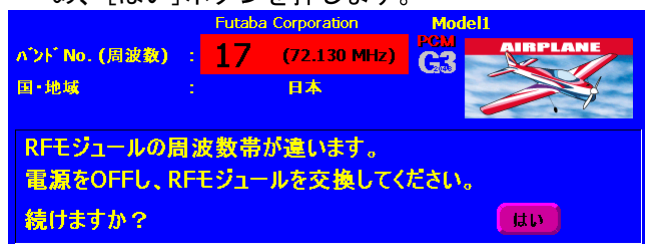
■ MZ-FM モジュールから TM-14 モジュールに差し替えたり、TM-14 から MZ-FM に差し替えるなど、異なるバンドの高周波モジュールに差し替えた場合は、バンドの再設定が必要です。

■ 2.4GHz システムでは、高周波モジュールと受信機との組み合わせ設定が必要です。受信機の取扱説明書を参照して設定を行ってください。

■ DSC 機能は使用できません。

■ マルチプロップ機能は使用できません。

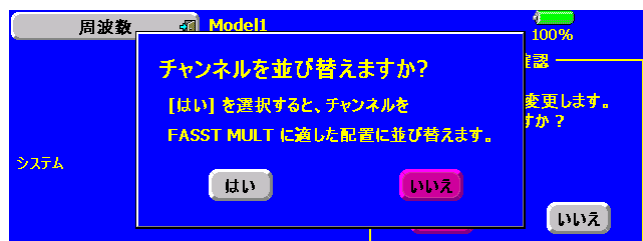
バンド設定方法

1. 高周波モジュールを TM-14 に差し替え、電源スイッチを ON にします。
2. 現在の設定と異なる高周波モジュールに差し替えたため、警告が表示されます。設定を変更するため、[はい]ボタンを押します。

3. リンケージ・メニューの周波数設定（[周波数]）を選択します。バンド変更の確認が表示されますので、[はい]ボタンを押します。

4. チャンネルモード選択画面が表示されます（詳細は後述の「チャンネルモード選択」をご覧下さい）。[はい]ボタンを押します。

5. ファンクション-チャンネル割り当ての変更確認画面が表示されます。[はい]ボタンを押すと、FASST における最適な設定に変更します。[いいえ]ボタンを押すと、設定は変更されません。

❗ チャンネル割り当て変更後は、必ず受信機の接続も変更してください。

■ FASST 方式における最適なチャンネル割り当てと、従来の変調方式での最適な設定は異なります。

6. バンド設定が 2.4GHz に変更され、周波数確認画面に戻ります。

レンジチェックモード操作方法

レンジチェックモードとは、距離テストのために電波の出力を下げ、電波の到達距離を短くしたモードです。

■ 安全のため、距離テストモードは 90 秒後に解除され通常モードに戻ります。

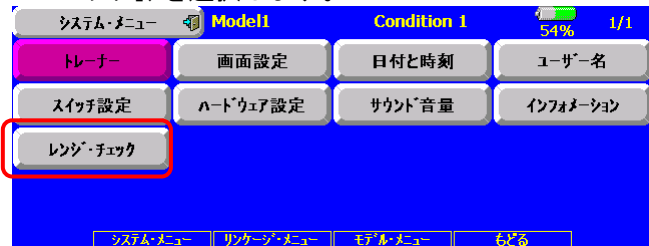
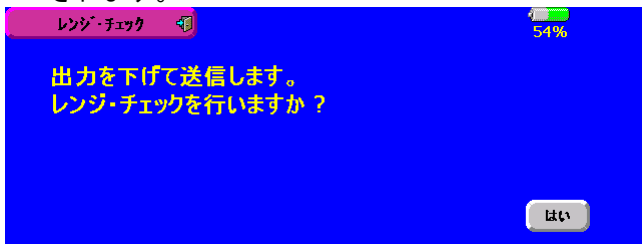
⚠警告

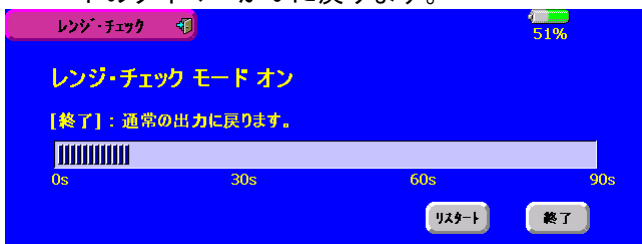
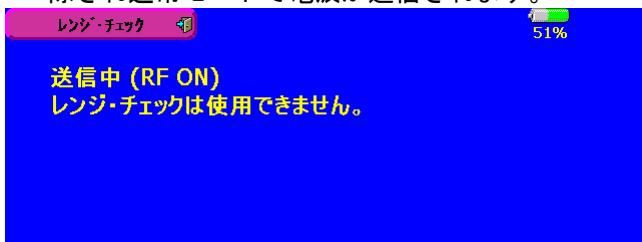
🛇レンジチェックモードのまま飛行させない。

■ 電波の到達距離が短いため、送信機から機体が離れると操縦不能になり墜落します。

1. 電源スイッチを ON にします。周波数確認画面で″いいえ″を選択します。

■ 安全のため、電波の送信中にレンジチェックモードに設定することは出来ません。

2. システム・メニューの距離テスト設定([レンジチェック])を選択します。

3. レンジチェック画面が表示されます。[はい]ボタンを押すと、レンジチェックモードで電波が送信されます。

4. レンジチェックモードは 90 秒後に自動的に解除され、通常モードで電波が送信されます。(レンジチェックが解除されるまでの残り時間[単位:秒]が表示されます)

■ [リスタート]ボタンを押すと、レンジチェックモードのタイマーが 0 に戻ります。

5. [終了]ボタンを押すとレンジチェックモードは解除され通常モードで電波が送信されます。

■ レンジチェックモードが解除された後に、再びレンジチェックモードを選択することは出来ません。再度レンジチェックモードを選択する場合は、電源スイッチを入れ直して始めからやり直してください。

チャンネルモード選択

TM-14 には、マルチチャンネルモード(14CH 対応)と 7 チャンネルモードの 2 種類のチャンネルモードがあります。組み合わせる受信機の対応チャンネルモードに合わせて、送信機のチャンネルモードを設定してください。(各受信機の対応チャンネルモードは TM-14 または受信機の取扱説明書で確認してください)

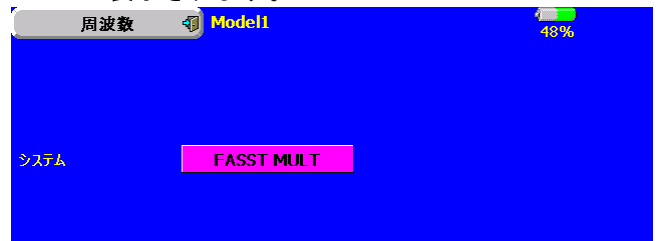
7 チャンネルモードの注意

※ 7 チャンネルモードでは、以下の制限があります。

■ トレーナー、ファンクション、サブトリム、サーボ・リバース、エンド・ポイントはチャンネル 1～7 の設定のみ有効になります。

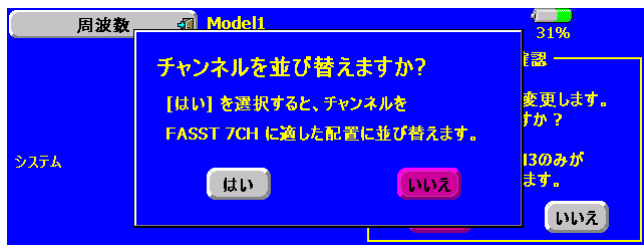
■ フェイルセーフ設定は 3 チャンネルのみ有効になります。

■ フェイルセーフ設定画面のバッテリーフェイルセーフ項目は無効です。7 チャンネルモードでは、フェイルセーフを有効にすると、バッテリーフェイルセーフも自動的に有効になります。

1. リンケージ・メニューの周波数設定([周波数])を選択します。現在設定されているチャンネルモードが表示されます。

2. チャンネルモードの表示ボタンを押します。

3. チャンネルモードの選択ボタンが表示されますので、いずれかを選択して[決定]ボタンを押します。

4. 確認画面が表示されます。[はい]ボタンを押すとチャンネルモードが変更され、周波数確認画面に戻ります。

5. ファンクション-チャンネル割り当ての変更確認画面が表示されます。[はい]ボタンを押すと、FASST における最適な設定に変更します。[いいえ]ボタンを押すと、設定は変更されません。

サーボ接続

チャンネルモードとスワッシュタイプに応じて、各ファンクションが FASST に最適な組み合わせにチャンネル割り当てされます。初期設定は以下の通りです。ご使用のタイプに合わせて受信機、サーボを接続してください。

■　モデルデータをデータリセットした場合は、右表のチャンネル割り当てに初期化されます。

■　モデルタイプが飛行機、グライダー、モーターグライダーの場合は、PCM-G3 と同じチャンネル割り当てです。

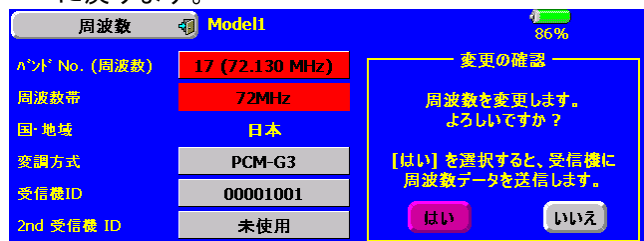
モデルタイプがヘリコプターの場合

CH	マルチモード		７チャンネルモード	
	H-4, H4X 以外	H-4, H4X	H-4, H4X 以外	H-4, H4X
1	ｴﾙﾛﾝ	ｴﾙﾛﾝ	ｴﾙﾛﾝ	ｴﾙﾛﾝ
2	ｴﾚﾍﾞｰﾀ	ｴﾚﾍﾞｰﾀ	ｴﾚﾍﾞｰﾀ	ｴﾚﾍﾞｰﾀ
3	ﾋﾟｯﾁ	ﾋﾟｯﾁ	ｽﾛｯﾄﾙ	ｽﾛｯﾄﾙ
4	ﾗﾀﾞｰ	ｴﾚﾍﾞｰﾀ 2	ﾋﾟｯﾁ	ﾋﾟｯﾁ
5	ｼﾞｬｲﾛ	ﾗﾀﾞｰ	ｼﾞｬｲﾛ	ｼﾞｬｲﾛ
6	ｽﾛｯﾄﾙ	ｽﾛｯﾄﾙ	ﾗﾀﾞｰ	ﾗﾀﾞｰ
7	ｶﾞﾊﾞﾅｰ	ｼﾞｬｲﾛ	ｶﾞﾊﾞﾅｰ	ｴﾚﾍﾞｰﾀ 2
8	ｶﾞﾊﾞﾅｰ 2	ｶﾞﾊﾞﾅｰ	AUX5	AUX5
9	ﾆｰﾄﾞﾙ	ｶﾞﾊﾞﾅｰ 2	AUX4	AUX4
10	AUX3	ﾆｰﾄﾞﾙ	AUX3	AUX3
11	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2
12	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

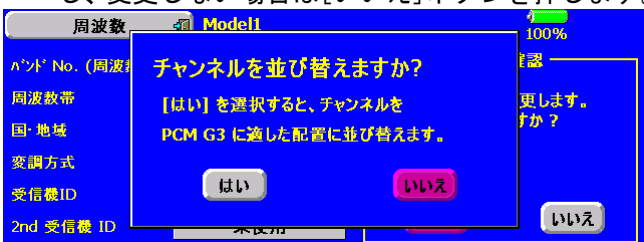
その他の機能追加, 変更

周波数設定

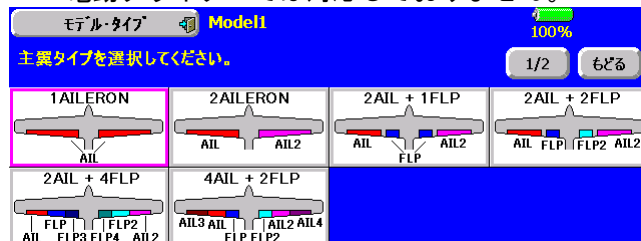
周波数設定画面で、周波数、変調方式、受信機 ID が同時に変更できるようになりました。

1. リンケージ・メニューの周波数メニューで設定を変更します。
2. 確認画面が表示されます。
3. 周波数ボタン、変調方式ボタン、受信機 ID ボタン、2nd 受信機 ID ボタンを押すと、対応する設定画面に戻ります。

ファンクション-チャンネル自動設定

変調方式(モジュレーション)を変更した際に、ファンクション-チャンネルを自動的に標準値に再設定する機能を追加しました。

1. リンケージ・メニューの周波数メニューで変調方式を変更します。
2. ファンクションの再設定の確認画面が表示されます。標準値に再設定する場合は[はい]ボタンを押し、変更しない場合は[いいえ]ボタンを押します。

モデルタイプ

PCM1024 モードの場合に選択できるグライダーのモデルタイプに、2 エルロン+4 フラップと 4 エルロン+2 フラップが追加されました。

■　電動グライダーでは対応しておりません。

スワッシュタイプ切り替え後のデータ初期化

従来はスワッシュ・タイプを切り替えるとモデルデータが全て初期化されましたが、データを初期化せず引き継ぐことができるようになりました。

■　データを引き継ぐ場合でも、[スワッシュ設定]画面のデータは初期化されます。

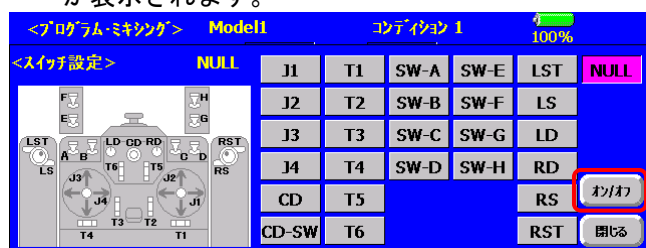
■　変更前と変更後のスワッシュタイプにより、データを引き継ぐことができない場合があります。

変更前	変更後	データ引継ぎ
H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	可
H-4, H-4X	H-4, H-4X	可
H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	H-4, H-4X	不可
H-4, H-4X	H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	不可

1. スワッシュ・タイプを変更すると、データを引き継ぐことができる場合にはデータの初期化の確認画面が表示されます。[はい]を押すとデータが初期化されます。[いいえ]を選択するとデータが引き継がれます。

ミキシング・スイッチの NULL-ON/OFF 設定

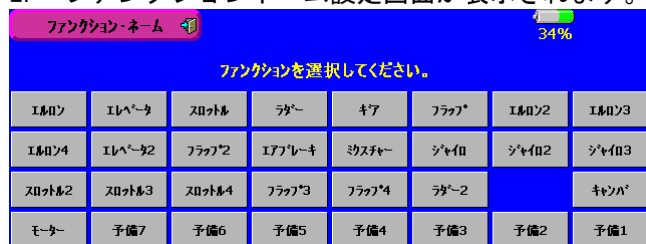
ミキシングの ON/OFF を切り替えるスイッチを NULL に設定した場合に、ミキシングが有効となるか無効となるかを選択できるようなりました。

1. ミキシング・スイッチの選択画面を開きます。スイッチを NULL に設定すると、[オン/オフ]ボタンが表示されます。

2. [オン/オフ]ボタンを押すと、オン/オフ設定画面が表示されます。[オン/オフ設定]を ON に設定するとミキシングが常に有効になり、OFF に設定すると常にミキシングが無効になります。

ファンクション・ネーム

ファンクションの名前を変更することができます。

■ ファンクション・ネームは、設定画面により 10 文字で表示される場合と、4 文字で表示される場合があります。

1. リンケージ・メニューの[ファンクション・ネーム]を選択します。
2. ファンクションネーム設定画面が表示されます。

3. ネームを変更するファンクションを選択すると、変更画面が表示されます。[名称変更]ボタンを押すと文字入力画面が表示されますので、ファンクションネームを入力して下さい。
4. [リセット]ボタンを押すと、初期状態のファンクション・ネームにリセットされます。

タイマー

パワーオフやモデル切り替えでもタイマーがリセットされないメモリモードが追加されました。

1. タイマー設定画面の"メモリー"を[ON]に設定するとメモリモードで動作します。[OFF]に設定すると、従来通りパワーオフやモデル切り替えでタイマーがリセットされます。

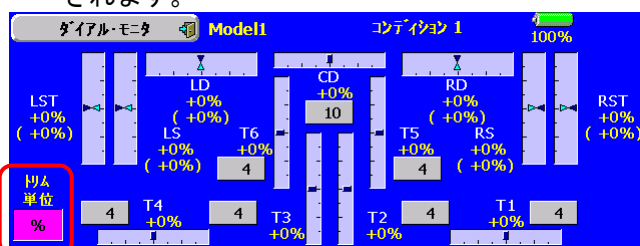
積算タイマー

積算タイマーの表示を、モデル毎に記録するモデルタイマーモードを追加しました。

1. システム・メニューの[日付と時刻]を開きます。
2. 積算タイマーのモード設定ボタンが[トータル]の場合は従来と同じ動作となり、[モデル]の場合は、モデル毎の経過時間が記録されます。

トリム表示単位

トリムに、%表示を選択できるようになりました。

1. リンケージ・メニューの[ダイヤル・モニタ]を開きます。"トリム単位"を[%]に設定すると、トリムが%単位で表示されます。"トリム単位"を[ステップ]に設定すると、従来通りトリムが数値で表示されます。

AFR, D/R

以下のファンクションは別途用意された専用機能で使用するため、AFR や D/R では選択できません。

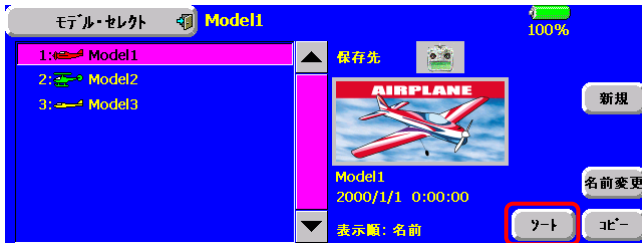
- エルロン 2, 3, 4
- フラップ 2, 4

- ラダー2
- スロットル(ヘリコプターのみ)
- ピッチ
- キャンバ
- ジャイロ 1, 2, 3
- ガバナー1, 2
- ミクスチャー
- マルチプロップ

モデル・セレクト

モデルデータの表示順序を指定できるようになりました。以下の 3 種類から選択可能です。

- 名前順モード（モデルネームの辞書順に表示されます。大文字、小文字は区別しません。）
- 日付順モード（新しく作成したモデルデータから表示されます）
- マニュアルモード(自由に並び替えることができます)

1. リンケージ・メニューの[モデル・セレクト]を開きます。
2. [ソート]ボタンを押すと、表示順序を変更することができます。

■ 名前順モード

1. [マニュアル]ボタンを押すとマニュアルモードに、[日付]ボタンを押すと日付順モードに表示が変わります。
2. [終了]ボタンを押すとモード変更を終了します。

■ 日付順モード

1. [マニュアル]ボタンを押すとマニュアルモードに、[名前]ボタンを押すと名前順モードに表示が変わります。
2. [終了]ボタンを押すとモード変更を終了します。

■ マニュアルモード

1. 表示順序を変更するモデルを選択します。
2. [△]ボタンを押すと選択されたモデルが上に移動し、[▽]ボタンを押すと下に移動します。

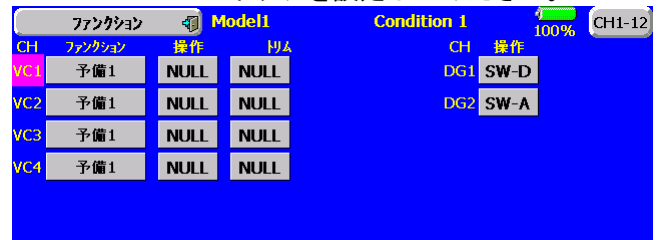
3. [オート]ボタンを押すと[日付]、[名前]ボタンが表示されます。[日付]ボタンを押すと日付順モードに変わり、[名前]ボタンを押すと名前順モードに表示が変わります。

PCM1024 10 チャンネル対応

PCM1024 モードで､10 チャンネル操作に対応しました。従来の第 9 チャンネル(DG1)と同様にスイッチチャンネルとして使用できます。

■ 第 10 チャンネルは T14MZ では”DG2”と表示されます。

■ 10 チャンネル対応の PCM1024 受信機が必要です。

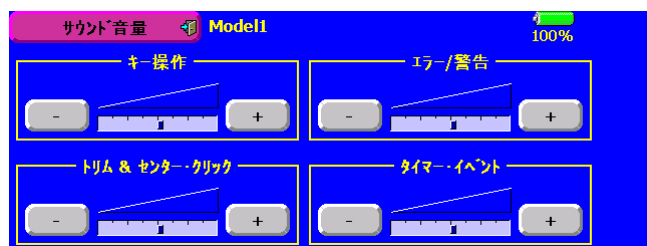
1. リンケージ・メニューのファンクションメニューを開きます。
2. [VC1-4]ボタンを押して 2 ページ目を表示させます。従来の”DG1”に加え”DG2”が追加されています。コントロールスイッチを設定してください。

3. サーボリバースも同様に設定してください。

音量変更

音声の種類に応じて、音量を設定することができるようになりました。設定できる音声の種類は以下の通りです。

- キー操作音
- エラー/警告音
- トリム、センタークリック音
- タイマー・イベント音

■ 音楽再生の音量は、従来通り音楽再生画面から設定します。

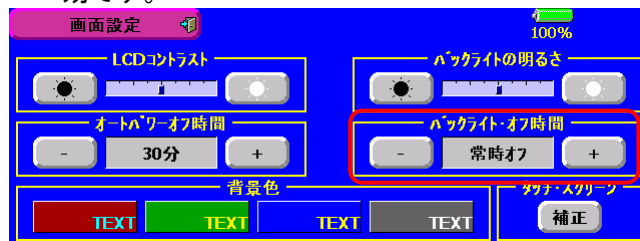
1. システム・メニューの[サウンド音量]ボタンを選択します。
2. サウンド音量設定画面が開きます。[+]ボタンを押すと音量が大きくなり、[-]ボタンを押すと音量が小さくなります。

■　安全のため、エラー/警告音は一定音量以下に設定できません。

ダイレクト・キー

ダイレクト・キーに「もどる」を割り当てると、直前に表示した設定画面に移動するようになりました。

バックライト・オフ時間設定

バックライトを、操作の有無に関わらず常にオフとすることができるようになりました。

1. システム・メニューの[画面設定]を開きます。
2. "バックライト・オフ時間"を[常時オフ]に設定すると、タッチパネルやロータリー・キー、ダイレクト・キーを操作してもバックライトが点灯しなくなります。バッテリの消耗を抑えたい場合に有効です。

ファンクション-チャンネル初期設定

PCM1024モードとPPMモードのファンクション-チャンネル設定を、以下の通り変更しました。

■　ノーマルとVテール機の場合

CH	1エルロン			2エルロン			2エルロン + 1フラップ		
	飛行機	EPグライダー	グライダー	飛行機	EPグライダー	グライダー	飛行機	EPグライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
2	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ
3	スロットル	モーター	AUX1	スロットル	モーター	AUX1	スロットル	モーター	AUX7
4	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
5	ギア	AUX7	AUX7	ギア	AUX7	AUX7	ギア	AUX6	AUX6
6	エアブレーキ	エアブレーキ	エアブレーキ	エルロン2	エルロン2	エルロン2	フラップ	フラップ	フラップ
7	AUX6	AUX6	AUX6	AUX6	AUX6	AUX6	エルロン2	エルロン2	エルロン2
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5
VC1	AUX1	AUX1	AUX1	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	バタフライ	AUX1	バタフライ	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

CH	2エルロン + 2フラップ			2エルロン + 4フラップ	4エルロン + 2フラップ
	飛行機	EPグライダー	グライダー	グライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
2	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ
3	スロットル	モーター	AUX6	ラダー	ラダー
4	ラダー	ラダー	ラダー	エルロン2	エルロン2
5	ギア	AUX5	AUX5	フラップ	エルロン3
6	エルロン2	エルロン2	エルロン2	フラップ2	エルロン4
7	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ3	フラップ
8	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ4	フラップ2
VC1	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC2	AUX1	バタフライ	バタフライ	バタフライ	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

■　無尾翼機の場合

CH	2エルロン			2エルロン + 1フラップ		
	飛行機	EPグライダー	グライダー	飛行機	EPグライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	ラダー2
3	スロットル	モーター	AUX1	スロットル	モーター	AUX7
4	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
5	ギア	AUX7	AUX7	ギア	AUX6	AUX6
6	エルロン2	エルロン2	エルロン2	フラップ	フラップ	フラップ
7	AUX6	AUX6	AUX6	エルロン2	エルロン2	エルロン2
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5
VC1	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ
VC2	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	バタフライ
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

CH	2エルロン＋2フラップ			2エルロン＋4フラップ	4エルロン＋2フラップ
	飛行機	EPグライダー	グライダー	グライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
2	ラダー2	ラダー2	ラダー2	エルロン2	エルロン2
3	スロットル	モーター	AUX7	ラダー	エルロン3
4	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー2	エルロン4
5	ギア	AUX6	AUX6	フラップ	ラダー
6	フラップ	フラップ	フラップ	フラップ2	ラダー2
7	エルロン2	エルロン2	エルロン2	フラップ3	フラップ
8	フラップ2	フラップ2	フラップ2	フラップ4	フラップ2
VC1	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ
VC2	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC3	AUX1	バタフライ	バタフライ	バタフライ	バタフライ
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

■　エルベーター機の場合

CH	1エルロン			2エルロン			2エルロン＋1フラップ		
	飛行機	EPグライダー	グライダー	飛行機	EPグライダー	グライダー	飛行機	EPグライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン	エルロン
2	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ	エレベータ
3	スロットル	モーター	AUX1	スロットル	モーター	AUX1	スロットル	モーター	AUX7
4	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー	ラダー
5	ギア	AUX7	AUX7	ギア	AUX7	AUX7	ギア	AUX6	AUX6
6	エアブレーキ	エアブレーキ	エアブレーキ	エルロン2	エルロン2	エルロン2	フラップ	フラップ	フラップ
7	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2	エルロン2	エルロン2	エルロン2
8	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	AUX5	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2
VC1	AUX1	AUX1	AUX1	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC2	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	バタフライ	バタフライ	AUX1	バタフライ	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1	AUX1

CH	2エルロン＋2フラップ		
	飛行機	EPグライダー	グライダー
1	エルロン	エルロン	エルロン
2	エレベータ	エレベータ	エレベータ
3	スロットル	モーター	AUX6
4	ラダー	ラダー	ラダー
5	エレベータ2	エレベータ2	エレベータ2
6	エルロン2	エルロン2	エルロン2
7	フラップ	フラップ	フラップ
8	フラップ2	フラップ2	フラップ2
VC1	キャンバー	キャンバー	キャンバー
VC2	AUX1	バタフライ	バタフライ
VC3	AUX1	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1	AUX1

■　ヘリコプターの場合

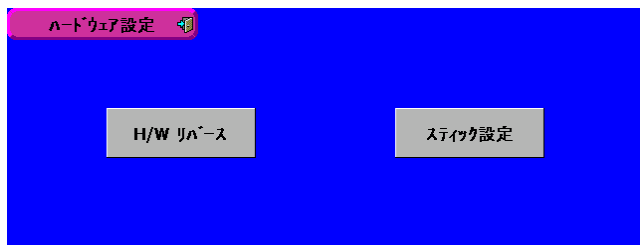
CH	H-1, H-2, HE3, HR3, HN3, H-3	H4, H-4X
1	エルロン	エルロン
2	エレベータ	エレベータ
3	スロットル	スロットル
4	ラダー	ラダー
5	ジャイロ	ジャイロ
6	ピッチ	ピッチ
7	ガバナー	ガバナー
8	ニードル	エレベータ2
VC1	AUX1	AUX1
VC2	AUX1	AUX1
VC3	AUX1	AUX1
VC4	AUX1	AUX1

（エディタ・バージョン 1.1 以前のバージョンアップ内容 ）

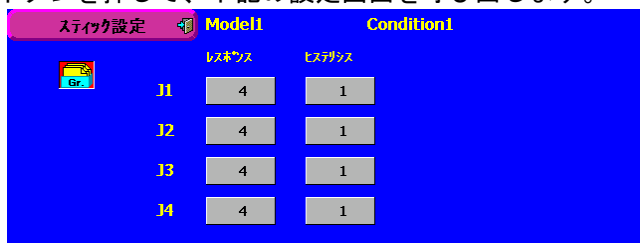
ハードウェア設定

スティック、スイッチ、トリム･レバー、ノブ等の設定を行う機能です。

●システム･メニュー

●システム･メニューで[ハードウェア設定]ボタンを押して、下記の設定項目選択画面を呼び出します。[H/W リバース]ボタンを押すと､H/W リバースの設定画面を呼び出します。H/W リバースの使い方は取扱説明書の 40 ページをご覧下さい。

スティック設定

コンディションごとに、スティック操作に対するサーボの反応速度（レスポンス）と、不感帯の幅（ヒステリシス）を設定する機能です。飛行演技に合わせてスティックの操作フィーリングを調整することができます。

●ハードウェア設定項目選択画面で［スティック設定］ボタンを押して、下記の設定画面を呼び出します。

レスポンスの調整方法

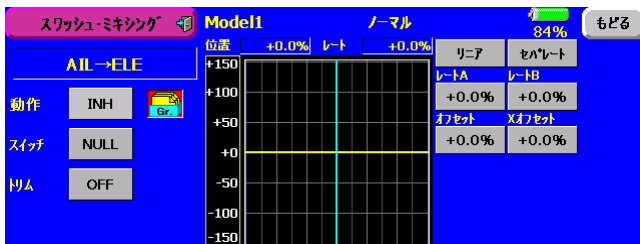
1. レスポンスを調整したいスティックに対応する設定ボタンを押します。スティック設定画面右端に調整ボタンが現れます。
2. 調整ボタンを使ってレスポンスを調整します。
   初期値：4
   調整レンジ：1～16
   （大きくするとレスポンスが遅くなります）

ヒステリシスの調整方法

1. ヒステリシスを調整したいスティックに対応する設定ボタンを押します。スティック設定画面右端に調整ボタンが現れます。
2. 調整ボタンを使ってヒステリシスを調整します。
   初期値：1
   調整レンジ：0～32
   （大きくするとヒステリシスが大きくなります）

設定が完了したら、［スティック設定］ボタンを押してシステム・メニューに戻ります。

スワッシュミキシング設定

スワッシュミキシングにトリムモード機能が追加されました。

●トリムモードの ON/OFF 設定

マスター側のトリムを含めてミキシングする場合は［ON］に、含めない場合は［OFF］に設定します。

モデル切替や周波数変更時の操作方法の変更

従来はモデル切替時や周波数変更時は、電源スイッチを入れ直す必要がありました。新バージョンでは、電波確認画面に移動するようになりました。これにより、電源スイッチを入れ直すこと無く、連続操作が出来るようになります。

■　ただし、電源 ON 時に、電波を出さない状態からはじめた場合は、電源を入れ直す必要があります。

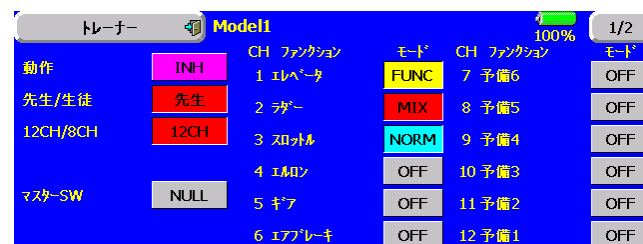
トレーナ

■　セッティングデータはモデルデータに記憶され、呼び出せます。

■　MIX モード及び FUNC モード時、生徒側の動作量設定が出来るようになりました。

■　トレーナチャンネルの on/off を個別のスイッチで切替が可能となりました。

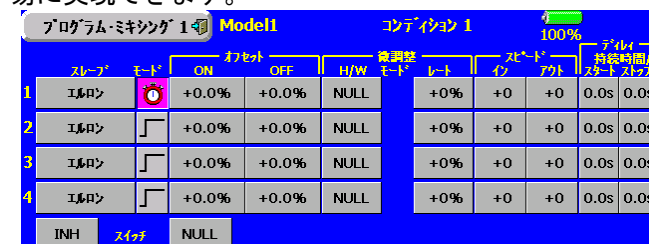
ﾄﾚｰﾅｰ　2/2

ﾁｬﾈﾙ ﾌｧﾝｸｼｮﾝ	ｽｲｯﾁ	ﾚｰﾄ	ﾁｬﾈﾙ ﾌｧﾝｸｼｮﾝ	ｽｲｯﾁ	ﾚｰﾄ
1 ｴﾚﾍﾞｰﾀ	NULL	+100	7 予備6	NULL	
2 ﾗﾀﾞｰ	NULL	+100	8 予備5	NULL	
3 ｽﾛｯﾄﾙ	NULL		9 予備4	NULL	
4 ｴﾙﾛﾝ	NULL		10 予備3	NULL	
5 ｷﾞｱ	NULL		11 予備2	NULL	
6 ｴｱﾌﾞﾚｰｷ	NULL		12 予備1	NULL	

トレーナモードを MIX 又は FUNC モードに設定した時、2 ページ目の画面にレートボタンが現れます。希望の生徒側レートに調整します。スイッチ選択ボタンの設定により、チャンネルごとにトレーナを on/off 出来ます。

モデルセレクト

モデルを変更、モデルを新規作成した後、電波 on/off 確認画面に移行でき、パワースイッチを off する必要が無くなりました。

PMIX

PMIX のオフセットモードにタイマーモードを追加しました。タイマモードはミキシングスイッチ on 後設定時間の間ミキシングが on となり、時間経過後 off となります。ミキシング off 時のレート調整も可能です。最大 9 秒まで on 時間の設定が出来ます。使用例として、スタートディレーと組み合わせると、ジェット機やスケール機の引っ込み脚とカバーの連動ミキシング等が容易に実現できます。

■ ディレー時間を最大 9 秒まで拡張しました（PMIX 共通）。
■ ミキシングの on/off のモードに ALT（オルタネート）モードを追加しました（PMIX 共通）。

スピード及びコンディションディレー時間

設定範囲を従来の 0～25 を 0～27 までに拡張しました。26 で従来の最大量 25 の 2 倍、27 で 4 倍のディレー時間となります。ジェットエンジンのスタートアップや、スケール機の引込み脚動作等、大きなディレー時間が必要な場合に有効です。

エルロンディファレンシャル、バタフライディファレンシャル微調整

■ 上げ舵を増加（減少）させた場合、下げ舵は減少（増加）するように動作を変更しました。
■ バタフライディファレンシャルの微調整量を 0～120%に拡張しました。

フラップトリム

フラップ-フラップ 4 のトリムセットが有効となり、それぞれ独立してトリム動作をするようにしました。

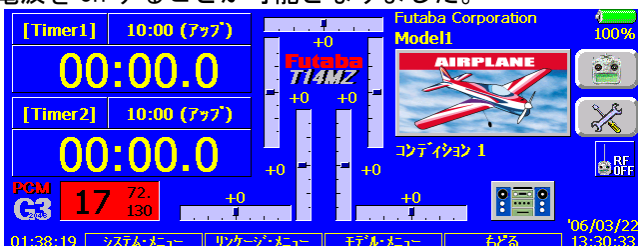
キャンバ及びバタフライファンクションのコンディションディレー

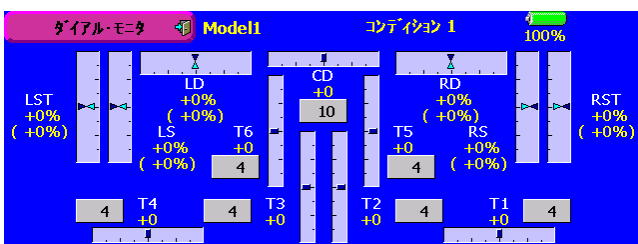
コンディションメニュー上のディレーボタンを削除しました。キャンバ及びバタフライのコンディションディレーは、それぞれのミキシングメニュー内のディレーで設定してください。

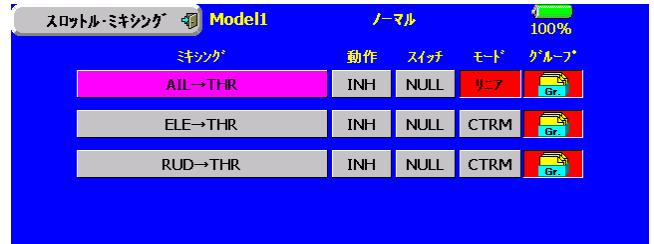
アイドルダウン

動作量を 2 倍に拡張しました。プログラムアップデートを掛けた場合、従来データは自動的に 1/2 となり、実際の動作量は前と同じになります。

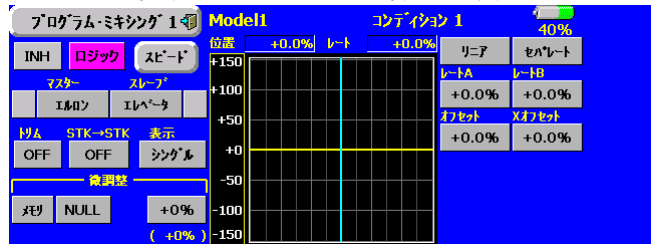
RF パワーオン・オフ

ホーム画面上に、電波がオフ時に、RF-off ボタンが追加されました。RF-off ボタンを押すと、電波 on/off 確認画面に移行出来ます。電源スイッチを off することなく、電波を on することが可能となりました。

ダイヤルモニタ

トリムボタンのステップ量の設定が、ダイヤルモニタ画面で直接設定出来るようになりました。

ヘリモード・スロットルミキシング

CTRM とリニヤの動作モードを選択できるようにしました。CTRM は従来の動作モードで、スロットルスティック位置がロー側、ハイ側でミキシング量が減少します。リニアモードは、スロットルスティックの全範囲でミキシング量の変化はありません。

ロジックスイッチ

ロジックスイッチとは、複数のスイッチの組み合わせで動作を ON/OFF できるようにする機能です。例えば､「2 つのスイッチが同時に ON になったときに機能が ON する」といった設定が可能です。このロジックスイッチ機能が拡張されました。

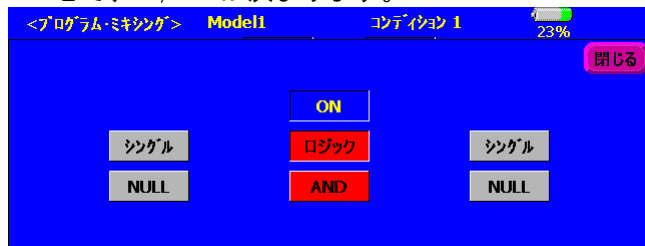
■ 従来は 2 個のスイッチの組み合わせしか選択できませんでしたが、最大 4 個まで選択できるようになりました。
■ 従来はコンディション切り替えスイッチにしかロジックスイッチが使用できませんでしたが、各ミキシング機能の ON/OFF スイッチにも使用可能になりました。（スナップロールは除きます）

設定手順

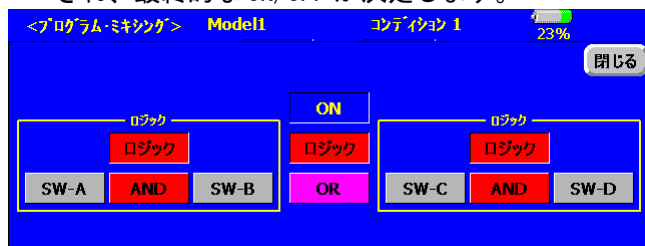
1. 設定したい機能のスイッチ選択ボタンを押します。
2. スイッチ選択画面が表示されます。画面中央にスイッチモードボタンとスイッチ選択ボタンが表示されます。

■ コンディション切り替えスイッチの場合は、スイッチ状態は表示されません。

ミキシング ON/OFF スイッチの表示

3. スイッチモードボタンを押すと、シングルスイッチモードとロジックスイッチモードが切り替わります。シングルスイッチモードは従来と同じ単独のスイッチで使用するモードです。ロジックスイッチモードに切り替えると、スイッチ選択ボタンがロジックモードボタンに変わり、左右にスイッチモードボ

タンとスイッチ選択ボタンが表示されます。左右に表示されたスイッチとロジックモードの組み合わせで、ON/OFF が決まります。

4. ロジックモードボタンを押すと、ロジックモード選択画面が表示されます。AND, OR, Ex-OR の 3 タイプから選択可能です。ロジックの動作を右下の表に示します。AND の場合は両方のスイッチがオン状態、OR の場合はどちらかのスイッチがオン状態、EX-OR の場合は両方のスイッチが違う状態で、結果がオン状態となります。

5. 左側または右側のスイッチモードボタンを押し、ロジックスイッチモードに切り替えると、それぞれ左右にスイッチ選択ボタンが追加されます。このようにして最大 4 個のスイッチの組み合わせを登録することが出来ます。3 個以上のスイッチを登録した場合は、枠で囲まれたスイッチの組み合わせが各々先に判定され、最後に中央に表示されたロジックで、先行して判定された枠内の組み合わせ同士が判定され、最終的な ON/OFF が決定します。

■ 図の例では、最初に SW-A と SW-B が AND 条件で判定され、次に SW-C と SW-D が AND 条件で判定されます。最後に SW-A と SW-B の判定結果と、SW-C と SW-D の判定結果を OR 条件で判定した結果が、最終的な結果となります。この場合は、SW-A と SW-B が同時に ON になるか、SW-C と SW-D が同時に ON になった場合に ON になります。

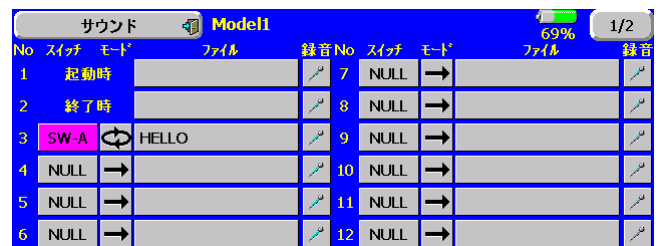
■ <u>制限事項</u>

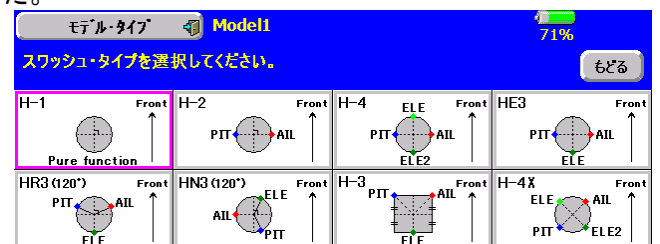
1. ロジックスイッチは、コンディション切り替えには最大 10 回路まで、ミキシング ON/OFF スイッチの設定にはコンディション毎に最大 8 回路まで使用できます。設定可能な最大値を越えてロジックスイッチを選択した場合は、エラーメッセージが表示されます。不要なロジックスイッチを解除してから、再度選択してください。

2. ON/OFF スイッチにロジックスイッチを使用したミキシングは、コンディションシングルモードに強制的に切り替えられます。ロジックスイッチを解除するまで、コンディショングループモードに切り替えることは出来ません。

サウンド　再生モード

　サウンドの再生モードにリピートモードが追加されました。再生モードボタンを押し、リピートモード(⟲)にすると、スイッチが OFF になるまでサウンドを繰り返し再生します。

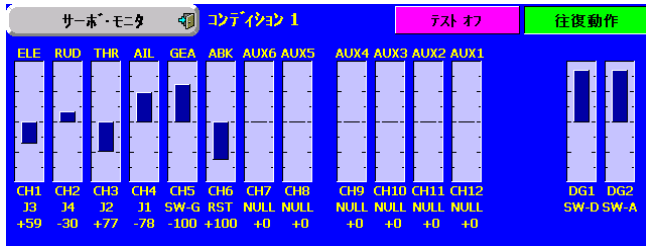
スイッチ		組合せロジック		
SW1	SW2	AND	OR	Ex-OR
off	off	off	off	off
off	on	off	on	on
on	off	off	on	on
on	on	on	on	off

モデルタイプ

ヘリコプターのモデルタイプに「H-4X」が追加されました。

■ H-4X モードは、大型スケールヘリ等で使われるスワッシュモードです。H-4 スワッシュを 45° 回転させた構造です。従来、H-4 モードでスワッシュミキシングを使い設定していましたが、H-4X モードを使うと、スワッシュミキシングは不要となります（H-4X に切り替える場合スワッシュミキシングは INH としてください)。H-4X モードではスワッシュ詳細設定で、リンケージ補正が使えるようになります。

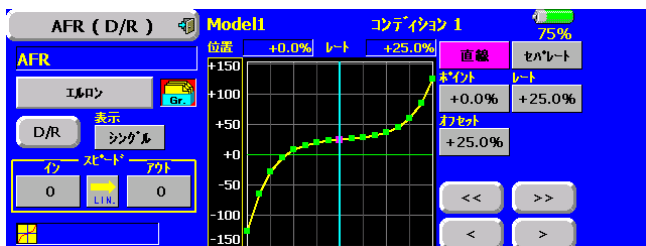
モーター

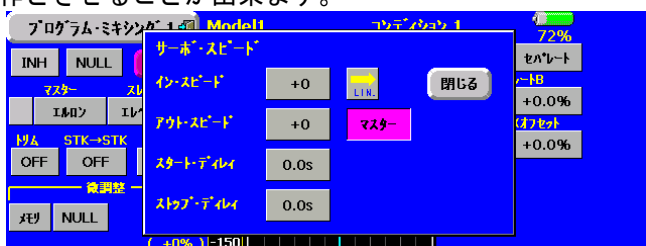
　飛行機モデルにモータミキシングを追加しました。また、ミキシングオン状態で電源をオンした場合、ワーニングメッセージを発します。

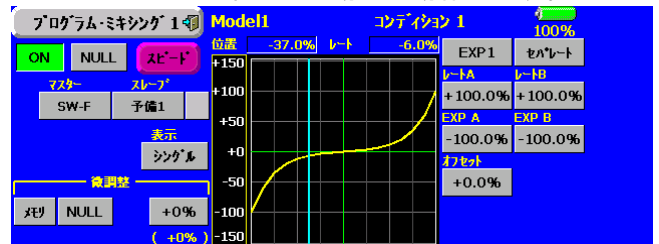
サーボモニタ

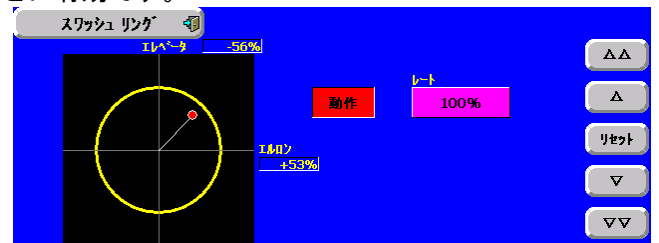
サーボモニタ画面に、チャンネルに割り当てられているファンクションとコントロールが表示されるようになりました。また、モデルネームに代わり、コンディションネームが表示されるようになりました。

カーブモード

カーブモードを切り替えるときに、カーブデータをリセットするかデータを維持するか選択できるようになりました。　カーブモードを切り替えると、カーブをリセットするか確認が表示されます。「はい」を押すと、カーブを初期値に戻します。「いいえ」を選択するとデータを維持したままカーブモードを変更します。直線モードまたは曲線モードに切り替えた場合は、17 または 11 ポイントのカーブで置き換えます。

例　リセットせずにカーブモードを EXP1 モードから直線モードに切り替えた場合のカーブデータ

プログラム・ミキシング　スピードモード

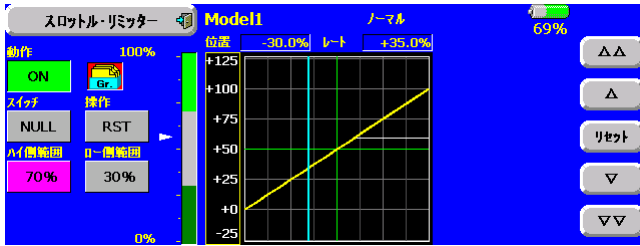
プログラム・ミキシングのマスターに動作スピードを設定することが出来るようになりました。本機能を応用し、スイッチ操作等で、サーボを設定カーブに倣った動作とさせることが出来ます。

設定方法

1.　プログラム･ミキシングをカーブモードに設定し、設定画面の「スピード」ボタンを押します。
2.　サーボスピードのスピードモード選択ボタンを押し、マスターモードに切り替えます。
3.　イン・スピード、アウト・スピードを設定します。
4.　プログラム･ミキシングのマスターにトグルスイッチを設定します。
5.　マスターに設定したスイッチを操作すると、設定したサーボスピードに従ってカーブのマスター位置マーカーが移動し、カーブ設定に沿ってスレーブファンクションが動作します。下の例では、SW-F を操作すると、スレーブの予備 1 ファンクションが EXP1 カーブに沿って自動的に動作します。

スワッシュリング

エルロンとエレベータの同時操作によるスワッシュリンケージの破損を防ぐため、スワッシュ動作量を一定範囲に制限する機能です。舵角を大きく取る 3D 演技などに有効です。

設定方法

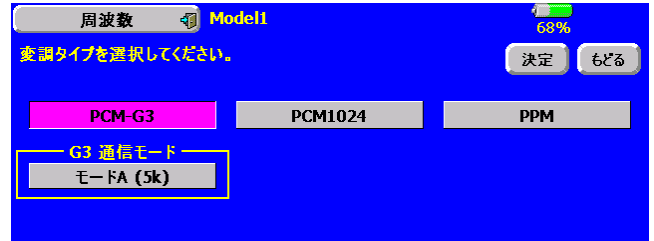
1.　リンケージメニューの「スワッシュリング」ボタンを押し、スワッシュリング設定画面を開きます。
2.　動作範囲表示エリアの赤いマーカーがスティックの位置を指しています。上下方向がエレベータ、左右方向がエルロンの操作量を示します。ACT/INH ボタンを押し「動作」表示にするとスワッシュリング機能が有効になり、動作範囲表示エリアに黄色の円が表示されます。スティックの動作は、この円の範囲内に制限されます。
3.　レートボタンを押してレート調整ボタンを表示させ、レートを設定します。調整範囲は 50～200%です。レートはスワッシュの傾き最大量に調整してください。

スロットル・リミッター

　スロットルカーブの上限リミット位置を設定する機能です。リミット位置の調整は、任意のコントロールに割り当てることが出来ます。調整範囲の上限、下限が設定可能です。

設定方法

1. モデルメニューの「スロットル・リミッター」ボタンを押し、スロットル・リミッター設定画面を開きます。
2. 動作ボタンを押し、INH から機能を有効にします。「ON」または「OFF」が表示されます。
3. スイッチ選択ボタンを押し、スロットル・リミッター機能の ON/OFF スイッチを選択します。
4. リミットコントロール選択ボタンを押し、リミット位置を調整するコントロールを選択します。
5. ハイ側範囲ボタンを押しレート調整ボタンを表示させ、リミット調整範囲上限を設定します。
6. ロー側範囲ボタンを押し、リミット調整範囲下限を設定します。調整範囲ゲージが表示されます。

PCM-G3 通信モード

　PCM-G3 の通信モードを、モード A とモード B の 2 タイプ選択できるようになりました。モード A は従来のモードです。モード B は通信品質を強化したモードです。ご使用の環境に合わせて選択してください。

設定方法

1. リンケージメニューから周波数設定画面を開きます。
2. 変調タイプに PCM-G3 を選択すると、PCM-G3 通信モードの選択ボタンが表示されます。
3. 選択ボタンを押して通信モードを選択し、決定ボタンを押してください。
4. 変更の確認画面が表示されますので、「はい」ボタンを押してください。

※注意

1. 通信モード B を使用する場合は、モード B に対応した受信機が必要です。(R5014DPS は対応していません)
2. 通信モード B は、スティック操作に対するサーボのレスポンスがモード A より約 20%低下します。